

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 試合の展開に固唾をのむ。 (1) こすい 2 かただ 3 かたず 4 こじょう)
- b 評論家が辛辣な意見を述べる。 (1) しんこく 2 しんそく 3 しんれつ 4 しんらつ)
- c 彼は十年に一人の逸材だ。 (1) めんざい 2 ばんざい 3 べんざい 4 いつざい)
- d 拙い文章だが思いが伝わった。 (1) はかな 2 つたな 3 しがな 4 せつな)

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 妹が頬をコウチヨウさせて走ってきた。
1 時代のチヨウリユウに乗る。 2 夕食の準備でホウチヨウを使う。
3 天気が回復するチヨウウコウがある。 4 サンチヨウから景色を撮影する。
b 先生が学校のエンカクを説明する。
1 熱中症予防のためエンブンを摂取する。 2 仲間にセイエンを送る。
3 道具の使い方をジツエンする。 4 川のエンガンに住む。
c 税理士のシカクを取る。
1 友人に結婚式のシカイを頼む。 2 新しい会社にトウシする。
3 定期購読しているザツシが届く。 4 自作のシシュウを出版する。

d 友人の気持ちをオシはかる。
1 軽率な行いをハンセイする。 2 姉は歌舞伎にシンスイしている。
3 事態のスイイを見守る。 4 卒業式で校歌をセイシヨウする。

(ウ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

真鍋 美恵子
まなべ みえこ

- 1 八月の昼の盛りに周囲が静まり返る中で、真夏の光をはね返してまぶしくかがやいている階段を見て、激しく流れ落ちる滝が連想されたということを、直喩を用いて表現している。
- 2 八月の日中に閑散としていた階段が、夜は人々でにぎわい、激しく音を立てる滝のように感じられたということを、時間と状況を順を追って説明することで具体的に表現している。
- 3 八月の昼間に真夏の暑さをしのぐうとして滝を見に行ったところ、激しく音を立って流れ落ちる様子を見て、大きな階段を思い浮かべたということを、体言止めを用いて表現している。
- 4 八月の暑さの中、次から次へと降りてくる人々の流れによって、階段が滝のようにかがやき動いて見えたことへの感動を、「かがやく」と平仮名を用いることで強調して表現している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昭和三十五年、青森県に住む「より子」は結婚することになり、挙式の当日に実家からの荷物を積み込んで、夫となる相手の家へ向かおうとしている。

〔著作権上の都合により省略〕

(著作権上の都合により省略)

（著作権上の都合により省略）

（高森 美由紀「藍色ちくちく」から。一部表記を改めたところがある。）

(注) ハイヤー＝客の申し込みに応じて営業する貸し切り乗用車。

菱刺し＝ここでは、青森県南部地方の伝統的な刺しゅうのこと。

あもこさなる＝青森県の一部の地域で使われている方言で「おばけになる」ということ。

(ア) 線1「その時の父の顔をより子は忘れられない。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「父」が仕事で汚れた姿を気にしていたことを知らずに、真っ黒な見た目をからかうような言動をしてみました。しかし、「父」が深く傷ついている様子を見て、自分の振る舞いを恥じているから。
- 2 学校に「父」が迎えに来ることに對する気恥ずかしさから、本心ではないことを言ってしまったが、必死に傷ついていないふりをする「父」の姿を見て、自分のことを情けなく思っているから。
- 3 真っ黒に汚れた姿の「父」が学校に来ることを恥ずかしく思うあまり、心ない言葉を浴びせてしまったが、傷ついても無理に笑おうとする「父」の姿を見て、自分の発言を後悔しているから。
- 4 学校まで迎えに来てくれる「父」に感謝しつつも、周囲の目が気になるため一人で先に帰っていたが、あとから家に戻ってきた「父」の傷ついた顔を見て、自分の行動が許せなくなっているから。

(イ) 線2「裏の馬小屋から座布団を括りつけた馬を引っ張ってきた父は、戸惑い顔から、はにかみ顔になっていた。」とあるが、そのときの「父」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 父親と一緒に嫁入り先へ向かうと「より子」が言ったことに照れくささを感じながらも、馬の準備を念入りに行ったことで、娘に恥をかかせることはないと安心して晴れやかな気持ちになっている。
- 2 ハイヤーに乗らないという「より子」の選択を受け入れて馬の準備を整えるうちに、娘が慣例どおりに行動しないことを恥じる気持ちが薄れ、一緒に嫁入り先へ向かうことに嬉しさを感じ始めている。
- 3 慣例にならわず馬で嫁入りをしたという「より子」の思いに応じて準備を整えたところ、一緒に嫁入り先へ向かうことができる喜びとともに、白無垢姿の娘と馬に乗る照れくささが込み上げている。
- 4 馬に乗って嫁入り先へ向かいたいという「より子」の要望をいったんは受け入れたものの、実際に準備が整うと娘が馬で嫁入りをするのが改めて意識され、恥ずかしさでいっぱいになっている。

(ウ) 線3「そうかあ……。」とあるが、ここでの「より子」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 生まれ育った場所の風景をじっくりと見たことで生家から遠ざかることへの不安が増し、気を紛らすために馬の話をしてきたものの、ますます気持ちが落ち込んでしまい困惑しているように読む。
- 2 慣れ親しんだ風景を眺めるうちになつかしい記憶がよみがえってきて、生まれ育った場所を離れることを名残惜しく感じたものの、歩みを止めることはできずに切なさをかみしめているように読む。
- 3 幼い頃から暮らしてきた場所をじっくりと見渡したことで、自分の人生を見つめ直すとともに故郷にもはや自分の居場所がないことを自覚し、新しい場所で生活するしかない諦めたように読む。
- 4 向かう先の山並みが霞んでいるのを見て嫁ぎ先への不安が膨らむ中で、周囲の風景を眺めるうちに自分の故郷のよさに初めて気づき、生まれ育った場所を離れることに疑問を感じているように読む。

(エ) —線4「やはり父の後ろに座っていてよかった。」とあるが、そのときの「より子」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 上出来とは言えない自分の菱刺しが施された下ばきを、嫁入りの日を選んで「父」が身につけてくれたことに喜びを感じつつも、自分の表情や思いが「父」に知られることを気恥ずかしく思っている。

2 「父」の顔を見て泣いてしまうのが不安で後ろに座ったことで、幼い頃の自分が菱刺しを施した下ばきが偶然見えたため、「父」が下ばきを大切にはき続けていることが分かって嬉しくなっている。

3 幼い頃に自分が菱刺しを施した下ばきを、「父」が嫁入りの日になってやっと身につけてくれたことに対する喜びを、「父」の背中を見つめながら一人で静かに味わえることに満足感を覚えている。

4 嫁入りの日には泣かないと決めていたものの、自分が幼い頃に菱刺しを施した下ばきを「父」がはいているのを見て涙が出てしまったため、自分の顔が「父」から見えないことに安心感を覚えている。

(オ) —線5「鼻をぐずぐずさせながら、震える声で言い替えた。」とあるが、そのときの「より子」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「父」が自分を大切に育ててくれたことを感じるとともに、自分の幼い頃の発言を「父」が気に留めていなかったことを知って安心し、思わず涙をこぼしながら感謝の言葉を伝えようとしている。

2 「父」とのわだかまりがとけたことに喜びを感じて涙が出てきたが、「父」との別れの時が迫っているため、二人きりでいるうちに自分を許してくれたことへの感謝の思いを伝えようとしている。

3 「父」が謝罪の言葉はふさわしくないと言ったことから、気持ちが通じなかったと勘違いして涙があふれてきたが、せめて自分を育ててくれたことへの感謝の言葉だけでも伝えようとしている。

4 「父」が愛情を込めて精一杯の力で自分を育ててくれたことを改めて実感するとともに、謝りたいという思いを受け止めてもらえたことも感じ、涙ながらに感謝の気持ちを伝えようとしている。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 嫁入り先に向かう「より子」が、目の前に広がる故郷の風景を見て心を和ませ、幼い頃の思い出を「父」とともに振り返る様子を、炭焼きや馬など当時の生活を想像させるものを用いて描いている。

2 結婚のため家を離れることになった「より子」が、結婚祝いや洗濯機を贈られたことをきっかけとして、「父」と再び言葉を交わすようになるまでの過程を、複数の登場人物の視点から描いている。

3 生まれ育った故郷を離れることになった「より子」が、一緒に嫁入り先に向かう「父」から励まされ、結婚生活に対する期待を高めていく様子を、会話以外の場面でも方言を交えて描いている。

4 結婚の日を迎えた「より子」が、嫁入り先に向かう時間を「父」と過ごすことで、我が子を思う親の気持ちの深さを感じ取っていく様子を、故郷の豊かな自然の風景を織り交ぜながら描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(井上 雅人「ファッションの哲学」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) メディア⇨人々の間で意思を伝達できるようにするための手段。

記号論⇨あるものごとを別のものに置き換えて表現することによって、対象とするものごとが持つ意味について考える学問。

(ア) 本文中の A · B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|---|-----|---|------|
| 1 | A | さらには | B | ただ | 2 | A | そして | B | あるいは |
| 3 | A | なぜなら | B | やがて | 4 | A | しかし | B | また |

(イ) 本文中の~~~~線Ⅰの「の」と同じ意味で用いられている「の」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|
| 1 | 休日に姉の作った料理を食べる。 | 2 | お気に入りの本を読む。 |
| 3 | 寒いのに上着を忘れた。 | 4 | 降ってきたのは雪だった。 |

(ウ) 本文中の~~~~線Ⅱの語の対義語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 獲得 | 2 | 贈答 | 3 | 出費 | 4 | 供給 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

(エ) ———線1「本や新聞のように、普遍的な言語コミュニケーションのメディアとして存在しているわけではないのだ。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 本や新聞は書かれた文字によって情報が伝達されるが、衣服に文字が書かれている場合は、文字が表すメッセージが衣服から伝わる情報と必ずしも同じであるとは限らないから。
- 2 本や新聞を初めて読んだ時には書かれている内容が理解できないことがあるが、衣服に書かれている文字を読む際には、初めて会う人に関する情報がわかりやすく伝達されるから。
- 3 本や新聞は書かれた文字を読むことで情報が伝達されるが、衣服に書かれている文字は、品質を保証するために利用されているに過ぎず、メッセージを伝達する機能はないから。
- 4 本や新聞は書かれた文字の量によって伝達できる情報量が異なるが、衣服に関しては、文字が書かれているものと書かれていないものとの間に伝達できる情報量の違いはないから。

(オ) ———線2「衣服を言語として考えうるか」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 衣服を文字や音声と組み合わせることによって、衣服だけを用いた場合には伝えることのできない意味を、見る人に読み取らせることができるかということ。
- 2 通常は衣服同士を組み合わせることで伝達している情報を、文字を書いたり音声を発したりすることによっても、誤解なく表現することができるかということ。
- 3 さまざまな形や色を持つ衣服同士の組み合わせによって、文字や音声だけでは表現することが不可能な感情や感覚を、正確に伝えることができるかということ。
- 4 文字や音声に変換することが可能な情報を、さまざまな形や色の衣服を組み合わせることによって、意図したとおりの意味で伝えあうことができるかということ。

(カ) 線3「強引な読み」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 衣服を解読しようとしても、衣服の意味は社会集団ごとに異なっていることに加え、流行の服は変化が早いので、「新しい」ということ以外に特定の意味を定めることはできないと考えているから。
- 2 民族衣裳の中には解読できるものもあるが、流行の服に関しては、ファッションへの関心が高い人から注目されている服にしか批評が行われておらず、衣服全体の分析とは言えないと考えているから。
- 3 ファッションに関する批評として行われる流行の服の解読は、社会集団の違いを考慮せず、「新しい」ということだけに注目して行われており、衣服の解読としては説得力に欠けると考えているから。
- 4 衣服から意味を読み取るうとしても、人によって解釈が大きく異なるだけでなく、すみやかに変化していく流行現象に影響され、着ている人の意図を無視した理解に陥ってしまうと考えているから。

(キ) 線4「豊かなコミュニケーションを成立させている」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ファッションは同じものに複数の意味が読み出せるため、個人に合った意味を選択することができ、一人ひとりが自身の人となりを表現してコミュニケーションをとる際に役立っているということ。
 - 2 ファッションは多様な解釈が可能であるため、社会の現状に応じて意味を捉えることができ、同じファッションが何度も新鮮なものとして人々のコミュニケーションを生じさせているということ。
 - 3 ファッションには発信者の込めた意味を想像する余地があるため、世代の異なる人々が、歴史上のファッションについて意見を交わしあうようなコミュニケーションの機会が生まれているということ。
 - 4 ファッションは社会情勢に従って変化し、意味を伝えることが難しいからこそ、人々がコミュニケーションをとる際に考えをめぐらせて新しい表現方法を生み出すきっかけとなっているということ。
- (ク) 線5「そういった無駄とも思える言語活動」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 テレビや出版物で広まる言語による解釈は、衣服を生産する人たちが見せかけで作ったものであり、消費されて跡形もなくなってしまうが、新しいファッションの発想が得られるという点で貴重である。
 - 2 マスメディアが言語を用いて行う説明や批評は、ファッションの一面を切り取ったものでしかなく、時代の移り変わりとともに消えてしまいが、ファッションが社会と密接に関わるためには不可欠である。
 - 3 マスメディアによる説明や批評は、必ず言語を用いて行われるため、ファッションにおける視覚的な情報が意味を持たなくなってしまうが、思想や芸術や日常生活への注意喚起として有効である。
 - 4 テレビや出版物における言語による解釈は、ファッションの意味が変化すれば不要になってしまうが、ある時代のファッションの一面に注目することにより、次の流行を作り出すためには重要である。
- (ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 他者を理解する際にファッションが有効であることを明らかにするとともに、衣服と言語を比較することによって言語特有の性質を把握し、衣服に対して言語が果たすべき役割について論じている。
- 2 文字が書かれた衣服が情報伝達に役立つことを指摘し、衣服と文字が歴史的にどのような関係を作り上げてきたかを分析することで、ファッションに対するマスメディアの重要性について論じている。
- 3 衣服が情報伝達的手段となっている現状を踏まえ、学説を複数引用して衣服が言語としての役割を果たしきれないということを明らかにした上で、ファッションと言語の関係性について論じている。
- 4 情報を伝達する際に衣服が使われている事例を紹介することで、文字のように衣服が使われていることに疑問を投げかけた上で、ファッションにおける流行に惑わされない方法について論じている。

(ア) 線1「このことに至りては理非顕然に候ふ。」とあるが、そのように言ったときの「顕季」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「義光」との領地の争いについては正否がわかりきっているにもかかわらず、「白河法皇」にはつきりと判断してもらえないことを不満に思っている。

2 領地に関する言いがかりとも受け取れる「義光」の訴えに対して、いっこうに厳しい罰を与えようとし、「白河法皇」の態度を情けなく感じている。

3 領地が「義光」のものではないと判断するのは難しくはないはずなのに、「白河法皇」に何度も呼び出されて説明を求められることを煩わしく思っている。

4 「義光」とともに領地の所有者についての意見を求めているにもかかわらず、全く相談に応じるそぶりを見せない「白河法皇」の様子に失望している。

(イ) 線2「ここに匠作零涙に及びて」とあるが、そのときの「顕季」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分が領地を所有することの正当性について主張し続けたせいで、「白河法皇」の怒りを買ってしまった、結果的に領地を手放すはめになってしまったことにやり切れない思いを抱いている。

2 「白河法皇」が自分の主張の正しさを認めてくれた上、武士の怒りを買う可能性があることを踏まえ、安全を考慮して判断をためらっていたことを知って恐れ多い気持ちになっている。

3 自分のようにたくさん領地を持っていないために「義光」がづらい思いをしていることを、「白河法皇」が哀れんで、自分に領地を手放してやるよう勧めたのだと知って感動している。

4 「白河法皇」が武士を恐れるあまり「義光」の味方になってしまったせいで、自分の領地が奪われたことに加え、所有を主張する訴えまで強制的に取り下げられてしまい悲しんでいる。

(ウ) 線3「冑甲を帯びたる武士ら五六騎ばかり、車の前後にあり。」とあるが、それを説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「顕季」が領地を譲ってくれたことに歓喜した「義光」は、領地を失ったばかりか家来まで手薄になってしまった「顕季」を部下に命じて警護させたということ。

2 「顕季」との領地争いに勝利したことで気をよくした「義光」は、「顕季」に自身の威勢のよさを知らしめるため意気揚々と部下たちを登場させたということ。

3 「顕季」が領地の一部を失ってしまって気落ちしていることに同情した「義光」は、部下に命じて「顕季」に対する恩に報いる機会を探らせていたということ。

4 「顕季」が気前よく領地を譲り渡してくれたことに感謝した「義光」は、「顕季」の身に危険が及ばないよう部下に命じてひそかに見守らせていたということ。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「義光」は領地に執着する一方、武士として忠義を貫く人物であり、家来として誠実に尽くす姿を見た「顕季」は、領地を譲ることを自ら「白河法皇」に願い出た自分の判断の正しさを確信した。

2 「顕季」は駆けつけた武士たちから話を聞いて、「義光」には武士として領地を守る性質の他に、他者の命を重んじる一面もあることを知り、不服だった「白河法皇」の裁決によく納得した。

3 「顕季」は領地を手放してしばらくたってから、不意に現れた勇ましい冑甲姿の武士たちを目の前にして、「義光」の武士としての側面を初めて実感し、「白河法皇」の配慮の確さに感服した。

4 「義光」は武士として、領地に対する強い思いを持った人物であり、「顕季」から与えられた領地を命がけで守ろうとする様子を見た「白河法皇」は、武士としての心意気を感じて褒めたたえた。

問五

中学生のAさんは、「AIとの関わり方」について考えるために、二つの文章を読んでいる。次の【文章1】、【文章2】は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

【文章1】

（著作権上の都合により省略）

（長谷川

真理子

「ヒトの原点を考える」から。一部表記を改めたところがある。）

【文章2】

（著作権上の都合により省略）

（大澤

真幸

「無意識が奪われている」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）レコメンド⇨勧めること。

エンカレッジ⇨促すこと。

- (ア) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで、内容を次のようにまとめた。【Aさんのメモ】中のI・IIに入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

【Aさんのメモ】

【文章1】

ある情報関係の研究者は、

「情報技術が人間の能力に取って代わる」

- ・掃除も洗濯も機械でできる。
- ・ロボットが、注文を聞いたり配達したりお勧めのメニューを見せてくれたりする。

という考えを、

「研究者はIだけでなく人々の幸せで充実した暮らしを大目標にして技術の発明や改良を行うべきだ」という考えに変えた。

【文章2】

読む本を選ぶとき、AIからのレコメンドやエンカレッジは便利に見える。しかし、無意識の次元にある自由は奪われている。AIに流されたせいではない。つまり、人間は、行動するときIIが失われないようにする必要があるということ。

関係があるのではないか。

- 1 I 自分の知的好奇心を満足させる II 選択が正しいと思える状態
 - 2 I 人間が働かずに生活する方法を考える II 何を選ぶか自分で決められる状態
 - 3 I 技術の進歩の可能性を追求する II 他を選ぶ可能性がある状態
 - 4 I 人間の肉体的な重労働の軽減を目指す II 選ぶべきものを教えてもらえる状態
- (イ) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで考えたことを次のようにまとめた。【Aさんのまとめ】中の.....に適することばを、あとの①〜④の条件を満たして書きなさい。

【Aさんのまとめ】

【文章1】を読んで、情報関係の研究者の考えを知ることができた。研究者が発明や改良を行った情報技術を使う立場にある私たちは、行動の主体はあくまでも人間であるという意識を持ち、自分て何かを達成するべきだ。そうすることで、充実感を得られ、幸せに暮らすことができると思った。また、【文章2】を読んで、【文章1】と【文章2】は関係があるのではないかと思った。幸せに暮らすためには自由であることも欠かせないと思うからだ。【文章2】によると、AIからの勧めに従って行動するとき、人間の無意識の次元にある自由は奪われてしまっている。以上のことを踏まえて考えると、AIなどの情報技術を、.....ように使うことを心がけるべきだ。そうすれば、充実感を得られるとともに自由も守られ、幸せに暮らすことができるのではないだろうか。今後は、AIをうまく活用している事例や別の研究者の考えについて調べてみたい。

① 書き出しの情報技術を、AIなどの情報技術を、という語句に続けて書き、文末の.....ように使うことを心がけるべきだ。という語句につながる一文となるように書くこと。

- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。
- ③ 【文章1】と【文章2】の内容に触れていること。
- ④ 「手助け」「偶有性」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)

